# 令和4年度 財政状況資料集

## **纷括事(市町村)**

								指定団体等	の指定状況		区分	令和4年度(千円)	令和3年度(千円)	区分		令和4年度(千円·%)	令和3年度(千円·9
	都道府県名	神穿	E川県	市町	村類型	ш	- 3	相定四体等	の日足れル	歳入総額		55, 185, 277	57, 747, 388	実質収支比率		7. 8	10
住民 面印								財政健全化等	×	歳出総額		52, 442, 521	54, 411, 936	経常収支比率		93.8	89
								財源超過	0	歳入歳出差	£51	2, 742, 756	3, 335, 452	(※1)		(93.8)	( 90.
	市町村名	海老	名市	地方交	付税種地	1	-5	首都	0	翌年度に総	越すべき財源	664, 100	570, 276	標準財政規模		26, 759, 832	25, 827, 69
								近畿	×	実質収支		2, 078, 656	2, 765, 176	財政力指数		1.03	1.0
		令和2年国調(人)	136, 516					中部	×	単年度収支	3	-686, 520	777, 010	公債費負担比率		8. 1	8.
	人口	平成27年国調(人	30, 190		蘑	主業構造(※5)		過疎	×	積立金		1, 293, 946	742, 111	健全化判断比率			
		増減率 (%)	4. 9	1				山振	×	繰上償還金	ì	48, 283	185, 295	実質赤字比率		-	
		令05.01.01(人)	138, 969	Þ	≅分	令和2年国調	平成27年国調	低開発	×	積立金取前	1し額	1, 057, 869	536, 165	連結実質赤字比率		-	
		うち日本人(	人) 135,892			685	727	指数表選定	0	実質単年度	収支	-402, 160	1, 168, 251	実質公債費比率		4. 6	3.
43-1	D#+4.55.0	令04.01.01(人)	136, 965	第	1次	1.1	1. 3			1		,		将来負担比率		28. 2	28.
1±.	民基本台帳人口 (※7)	うち日本人(				15, 558	14, 309			基準財政収	7 入 2百	20, 846, 438	19, 709, 791	資金不足比率 (※4)			
		増減率 (%)	1.5	第	2次	26. 0	26. 1			基準財政需		20, 114, 991	20, 000, 707	X = 1 × 20 + (% 1)			
		うち日本人(				43, 674	39, 821			標準税収入		26, 759, 832	25, 285, 536				
	面積 (km²)	75040	26.59	第	3次	72.9	72. 6			_	、銀守 5当一般財源等	26, 127, 155	24, 608, 470				
1.	回復(KM) 口密度(人/km)		5, 134			12.9	12. 0			歳入一般即		34, 496, 177	32, 943, 106				
			58, 339							威人一般則	1 源 寺	34, 490, 177	32, 943, 100				
1	世帯数(世帯)				h 100 /1110					4							
	1	1	1	職員のも	犬況 (※8	1)	1	1									
	区分	定数	1人あたり平均 給料月額(百円)	l _		区分	職員数	給料月額 (百円)	1人あたり平均 給料月額(百円)	地方債現在		28, 140, 138	28, 000, 121				
				般						うち公的		15, 997, 029	15, 902, 771				
特別職	市区町村長	1	9, 300	職員	一般職員		795	2, 419, 185	3, 043		高(臨時財政対策債除き)	26, 597, 448	26, 106, 726				
	副市区町村長	2	7, 460	等		肖防職員	190	554, 990	2, 921		i 為額(支出予定額)	11, 532, 089	8, 034, 838				
	教育長	1	7, 000			支能労務職員	55	162, 360		収益事業収		=	=				
等	議会議長	1	5, 360	* 6	教育公社		14	52, 892	3, 778	土地開発基		-	-				
	議会副議長	1	4, 510	Ü	臨時職員	Ą	-	-		- **** ^	財政調整基金	3, 072, 538	2, 836, 461				
	議会議員	20	4, 220		合計		809	2, 472, 077	3, 056	積立金 現在高	減債基金	-	=				
					ラスパイ	レス指数			101.5		その他特定目的基金	5, 519, 830	4, 909, 612				
en.	会計等の一覧		± ±.	会計の一	RE-			公営企業 (法適)	<b>の一</b> 些		公営企業 (法非適) の一!	ı:	関係する一部事務編	B 企 等 一 影	地士ハ社・第	三セクター等一覧	
		会計名	争未 項番		見	会計名		公昌正来 (法國) 項番	の一覧 会計名			<sup>NL</sup> ≩計名	関係する一部争務制	組合等名	・ 項番	ニセクター寺一覧 団体名	(%3)
					(保険事業			(6) 公共下水道3					(7) 高座清掃施設系		(12) 海老名市		
(1)	一般云計		(3)	曲氏键牌	(保険事業	特別云訂		(0) 公共下水道等	11 云 禾 4				(7) 高崖清掃施設制	18	(12) 海花名巾	工地開発公任	
(2)	公共用地取得事業特別	削会計	(4)	介護保険	事業特別	会計							(8) 広域大和斎場総	合			
			(5)	後期高齢	者医療事	業特別会計							(9) 神奈川県後期高	5齢者医療広域連合(一般会計)			
													A4 11 III 60 HO	*******			
													(10) 伊奈川県俊期高 医療特別会計)	<b>新</b> 齡者医療広域連合(後期高齡者			
													(41) +++	I THE STATE OF ALL AND A			
													(11) 神奈川県市町村	「職員退職手当組合			

<sup>(</sup>注釈) ※1:経常収支比率の()内の数値は、「減収補減債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
※2:各会計の一覧は主な会計(印会計まで)を記載している。
※3:地方公共団体が損失補減等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に〇印を付与している。
※4:資金不足比率職[には、資金が不足している会計のみ記載している。
※5:産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
※6:個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「一人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(\*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(一)としている)。
※7:人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本が無に登載されている人口に基づいている。
※8:職員の状況については、令和4年度地方公務員給与実態調査に基づいている。

## (1) 普通会計の状況(市町村)

決算額						額  構成比  超過課税	
	構成比	経常一般財源等		区分	収入済額		
24, 646, 937	44. 7	23, 164, 243			23, 164, 243	94. 0	158, 703
							158, 703
							158, 703
116, 211	0. 2	116, 211	0.4				
			-				
3, 243, 566	5.9	3, 243, 566	11.6				158, 703
-	-	-	-				
-	-	-	-	うち純固定資産税			
582	0.0	582	0.0	軽自動車税			
-	-	-	-	市町村たばこ税	975, 087	4. 0	
61, 041	0.1	61, 041	0. 2	鉱産税	-	-	
324, 766	0.6	324, 766	1. 2	特別土地保有税	-	-	
206, 624	0.4	206, 624	0.7	法定外普通税	-		
204, 841	0.4	204, 841	0.7		1, 482, 694	6.0	
1, 783	0.0	1. 783			1, 482, 694	6.0	
45, 569	0.1	_	_	入湯税		.   _	
-		_	_		_	.  _	
45 569	0.1	_	_		1 482 694	6.0	
,	-	_	_		-, 102, 00 .		
29 081 153	52 7	27 552 890	98 9		_	.  _	
					_	.  _	
		17,010			24 646 937	100.0	158, 703
		120 651			24, 040, 007	100.0	100, 700
		130, 031	0.5				
				<u> </u>	△11/4年前		令和3年度
10, 907, 755	19.0		_	/ \  A∗l			99.2 96.9
2 400 444	6.0	_	_				98. 9 95. 5
		10.004					
		18, 664	0. 1		99. 4	98. 0	99. 4 97. 9
		-	_				A III - 11-1-
		_	-			康保険事業	
		-					19, 140
		148, 007	0.5				-395, 898
2, 806, 900	5. 1	-	-			;)	17, 045
-	-	-	-				25, 107
-	-	-	-				入額 100
55, 185, 277	100.0	27, 868, 125	100.0				317
	276, 639 7, 543 7, 543 151, 675 116, 211 3, 243, 566 582 61, 041 324, 766 206, 624 204, 841 1, 783 45, 569 29, 081, 153 17, 913 438, 737 255, 945 318, 229 10, 907, 753 3, 408, 444 91, 418 927, 524 2, 615, 370 3, 335, 452 980, 439 2, 806, 900	276, 639 7, 543 0.0 7, 543 151, 675 116, 211 0.2 3, 243, 566 582 0.0 61, 041 324, 766 206, 624 204, 841 1, 783 0.0 45, 569 45, 569 29, 081, 153 17, 913 438, 737 28, 084, 484 1, 1783 1, 1783 1, 1783 1, 188, 188, 188, 188, 188, 188, 188, 1	276, 639 7, 543 7, 543 151, 675 116, 211 2, 2, 116, 211 3, 243, 566 5, 9 582 0, 0 582 61, 041 324, 766 206, 624 204, 841 1, 783 0, 0 45, 569 45, 569 0, 1 29, 081, 153 438, 737 29, 081, 153 255, 945 17, 913 438, 737 255, 945 10, 907, 753 19, 8 255, 945 318, 229 10, 907, 753 19, 8 3, 408, 444 91, 418 927, 524 938, 439 938, 444	276, 639	276, 639	276, 639	276, 639

(注	釈)
	-tete

注析() 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

			位 千円・%)			
= 0	目的別歳		(単位 千円・%)	en. <del>12</del> 49 79	· //\	- VI en Divizione
区分	決算額 (A)	構成比	(A) のうち普通建	<b>E設事業質</b>	(A)のうち折	
議会費	280, 452	0.5		000 004		280, 444
総務費	9, 223, 868	17. 6		326, 284		7, 173, 452
民生費	20, 525, 510	39. 1		150, 686		9, 929, 094
衛生費	4, 567, 602	8. 7		14, 079		3, 113, 023
労働費	143, 508	0.3		45.040		8, 508
農林水産業費	307, 687	0.6		15, 646		278, 106
商工費	583, 518	1.1				444, 142
土木費	5, 632, 653	10. 7	3	8, 623, 650		1, 875, 952
消防費	2, 177, 967	4. 2		116, 616		1, 945, 135
教育費	6, 192, 336	11.8		871, 651		3, 898, 145
災害復旧費				-		
公債費	2, 807, 420	5. 4		-		2, 807, 420
諸支出金	-	-		-		
前年度繰上充用金			_	-		
歳出合計	52, 442, 521	100. 0		5, 118, 612		31, 753, 421
	性質別歳	生の生活	(単位 千円・%)			
区分	決算額	横成比	充当一般財源等	<b>级带级弗</b> 森	当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	24. 331. 232	46. 4	14, 230, 554	柱市柱長九	14. 056. 321	50.4
人件費	7, 907, 127	15. 1	7, 456, 228		7, 331, 194	26. 3
うち職員給	5, 091, 571	9. 7	4, 807, 271		7, 001, 134	20.0
扶助費	13, 616, 685	26. 0	3, 966, 906		3, 966, 038	14. 2
公債費	2, 807, 420	5. 4	2, 807, 420		2, 759, 089	9. 9
元利償還金	2, 807, 420	5. 4	2, 807, 420		2, 759, 089	9. 9
内うち元金	2, 666, 883	5. 1	2, 666, 883		2, 618, 601	9. 4
訳しうち利子	140, 537	0.3	140, 537		140, 488	0. 5
一時借入金利子	140, 337	0.3	140, 337		140, 400	0. 3
その他の経費	22, 992, 677	43. 8	16, 962, 727		12, 070, 834	43. 3
物件費	10, 765, 230	20. 5	7, 651, 877		6, 592, 670	23. 7
維持補修費	425, 700	0.8	421, 156		420, 900	1.5
補助費等	4, 234, 814	8. 1	2, 909, 322		2. 118. 815	7. 6
一一の負牙のような一部事務組合負担金	886, 588	1.7	886, 588		886, 588	3. 2
クラー 印事	4, 037, 188	7. 7	3, 376, 583		2, 938, 449	10. 5
精立金	3, 394, 745	6.5	2, 603, 789		2, 930, 449	10. 3
根立並 投資・出資金・貸付金	135, 000	0.3	2, 003, 769		_	
投員・出員並・員刊並   前年度繰上充用金	133,000	0.3				
刊中及採工兀用並 投資的経費計	5. 118. 612	9.8	560, 140			
投資的経貨計 うち人件費	116, 102	0. 2	116, 102			
フら人件賞   普通建設事業費	5, 118, 612	9.8	560, 140			
内 うち補助	2, 537, 313	4.8	182, 889 377, 251			
訳のお単独	2, 581, 299	4. 9	377, 251			
(単) 災害復旧事業費 (大業対策事業費	_	-	_			
太果刈束争未貸 歳出合計	52, 442, 521	100. 0	31, 753, 421			
級山口間	JZ, 44Z, JZI	100.0	31, 733, 421			

## (2) 各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率(市町村)

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

放五日 40% 以次(十四.日7)11/								
会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等 からの 繰入金	地方債 現在高	備考	
1 一般会計	55,084	52,342	2,743	2,079	2,615	28,140		1
2 公共用地取得事業特別会計	109	109	0	0	0	-		1
3								1
4								1
5								1
6								1
7								1
8								1
9								
10								1
11								1
12								1
13								1
14								1
15								1
16								Ī
+ 一般会計等(純計)	55,193	52,451	2,743	2,079		28,140		Ī

※一般会計等(純計)は、各会計の相互間の繰入・繰出等の重複を控除したものであり、各会計の合計と一致しない場合がある。

公堂企業会計等の財政状況(単位・百万円	1)

会計名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額 /不足額 (実質収支)	他会計等 からの 繰入金	企業債 (地方債) 現在高	左のうち 一般会計等 繰入見込額	資金不足 比率	備考
1 国民健康保険事業特別会計	12,052	12,033	19	19	1,350	-	-	-	
2 介護保険事業特別会計	8,942	8,519	422	422	1,622	-	-	-	
3 後期高齢者医療事業特別会計	2,115	2,088	27	27	333	-	-	-	
4 公共下水道事業会計	3,068	2,822	246	156	222	11,562	1,746	-	法適用企業
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									L
30									
31									
32									
33									
34									
35									
計 公営企業会計等				624		11,562	1,746		

## 関係する一部事務組合等の財政状況(単位:百万円)

	一部事務組合等名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額 /不足額 (実質収支)	他会計等 からの 繰入金	企業債 (地方債) 現在高	左のうち 一般会計等 負担見込額	備考
1	高座清掃施設組合	3,777	3,279	498	488	1	10,923	3,920	
2	広域大和斎場組合	481	445	36	34	-	81	19	
3	神奈川県後期高齢者医療広域連合(一般会計)	4,957	4,411	546	546	543	-	-	
4	神奈川県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)	1,038,597	1,027,785	10,811	10,811	7,967	-	-	
5	神奈川県市町村職員退職手当組合	3,303	3,104	199	199	-	-	-	
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
計	一部事務組合等				12,078		11,004	3,939	

地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況(単位:百万円)

地方公社・第三セクター等名

1 海老名市土地開発公社

経常損益 純資産又は 正味財産

令和4年度 神奈川県海老名市

6 7 8 9									
9									
10									
- 1									
11									
12									
3									
14									
15									
16									
17		1							
18									
19									
20 21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28 29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
36									
37									
38									
39 40									
41									
42									
43									
44									
45									
46									
47									
48									
49									
50									
51									
52 53 54									
53									
55 56									
56 57									
57									
58									
60									
61									
62									
63		1							
64									
65									
66									
67									
68									
69									
70									
71									
72 73		-							
73									
75									
76									
77									
78									
_									
_									
_									
011		1							
82	地方公社・第三セクター等		 1	-	-	-	-	-	
82	200 AT #= C// 4			を記載している	7				
79 80 81	地方公社・第三セカター等			-	-	-	-		-

公債	費負担の状況					将来負担の	状況		
	実質公債費比率 (	千円・%)							
	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	分母比		区	分	
元利	償還金	2,702,890	2,783,836	2,759,137	11.0	将来負担額	一般会計等に係	系る地方債の現在	高
減債	基金積立不足算定額	37,720	52,183	-	-		債務負担行為(	に基づく支出予定額	Į.
準	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	119,928	118,595	117,262	0.5		公営企業債等網	<b>朵入見込額</b>	
元	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	149,859	150,980	153,270	0.6		組合等負担等身	已込額	
利償	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	116,889	216,346	371,180	1.5		退職手当負担身	見込額	
還	債務負担行為に基づく支出額(公債費に準ずるもの)	79,042	79,517	79,995	0.3		設立法人等の負	負債額等負担見込	額
金	一時借入金の利子	-	-	-	-		うち、健全化法施行	<b>庁規則附則第三条に係</b> る	る負担
	合計 (A	3,206,328	3,401,457	3,480,844			連結実質赤字額	Ā	
	内訳	令和2年度	令和3年度	令和4年度	分母比		組合等連結実質	<b>貞赤字額負担見込</b>	額
	PF!事業に係るもの	-	-	-	-		合計		
	いわゆる五省協定等に係るもの	-	-	-	-	充当可能	充当可能基金		
债	国営土地改良事業・森林総合研究所等が行う事業に係るもの	-	-	-	-	財源等	充当可能特定前	<b></b>	
務	地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-		基準財政需要額	質算入見込額	
負担	社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-		合計		
行	損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-	将来負担比	率((E)-(F))/(	$(C)-(D)) \times 100$	
為	引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-				
	その他上記に準ずるもの	79,042	79,517	79,995	0.3				
	利子補給に係るもの	-	-	-	-	健	全化判断比率	令和4年度	早
特定	財源の額 (B	500,470	491,359	451,824		実質	赤字比率	-	
標準	財政規模(C	25,913,867	25,827,690	26,759,832		連結	実質赤字比率	-	
算入	公債費等の額 (ロ	1,771,583	1,723,053	1,717,564		実質	公債費比率	4.6	
	(C)-(D	24,142,284	24,104,637	25,042,268		将来	負担比率	28.2	
実質	公債費比率 (単年度)	3.9	4.9	5.2					
	-((B)+(D))) / ((C)-(D)) × 100 (3ヵ年平均	2.8	3.7	4.6					

					D~=100	
80	1.5			退職手当負担身	見込額	
95	0.3			設立法人等の負	負債額等負担見込	額
-	-			うち、健全化法施行	<b>〒規則附則第三条に係る</b>	負担見込額
44				連結実質赤字額	Ā	
度	分母比			組合等連結実質	<b>日赤字額負担見込</b> 額	額
-	-			合計		(E)
-	-	充当可		充当可能基金		
-	-	財源	<del>↑</del>	充当可能特定前	<b></b>	
-	-			基準財政需要額	質算入見込額	
-	-			合計		(F)
-	-	将来負担	坦比	率((E)-(F))/(	$(C)-(D)) \times 100$	
-	-					
95	0.3					
-	-		健:	全化判断比率	令和4年度	早期健全
24			実質	赤字比率	-	
32			連結	実質赤字比率	-	
64			実質	公債費比率	4.6	
60			बंदर क	各担レセ	20.0	

	合計		(F)	29,892	2,229	30,275,848	29,891,343	L
担比	率((E)-(F))/(	$((C)-(D)) \times 100$			32.7	28.7	28.2	
健	建全化判断比率 令和4年度		早期健全	開健全化基準 財政再生基準				
実質	赤字比率	-		11.97		20.00		
連結	吉実質赤字比率 -			16.97		30.00		
実質	公債費比率	4.6		25.0		35.0		
将来負担比率		28.2		350.0				

784,340

1,745,915

3,938,625

28,376,178 28,000,121 28,140,138

864,335

1,715,401

4,224,394

15,900,060

943,852

1,713,305

4,312,874

2,451,664

7,769,380

5,343,396

16,779,453

国国工地収良争来に一体のセル 債務 負 地方公務員等共済組合に係るもの 地方公務員等共済組合に係るもの は頼土地の買い戻しに係るもの 2,407,774 2,356,177 行 社会福祉法人の施設建設費に係るもの 損失補償・債務保証の履行に係るもの 引き受けた債務の履行に係るもの (E) 37,797,873 37,212,025 36,965,195 その他上記に準ずるもの 943,852 864,335 784,340 公共下水道事業会計 1,715,401 9,368,161 10,102,184 1,745,915 40.3 1,713,305 5,007,627 5,146,149 20.5 介護保険事業特別会計 企業債等 繰入見込額 後期高齢者医療事業特別会計 58.5 14,643,010 国民健康保険事業特別会計 その他の会計 28.2 地方道路公社に係る将来負担額 公社・ 土地開発公在に味る17 小なに 三セク等 地方独立行政法人に係る将来負担額 土地開発公社に係る将来負担額 その他第三セクター等に係る将来負担額

内訳

PFI事業に係るもの

いわゆる五省協定等に係るもの

国営土地改良事業に係るもの

112.4

3.1

15.7

令和2年度 令和3年度 令和4年度 分母比

## (3)市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人(R5.1.1現在) 138, 969 うち日本人 135, 892 人(R5.1.1現在) 連結宴曾赤字比率 96 26. 59 4.6 実 質 公 債 費 比 率 λ 55, 185, 277 千円 将来鱼担比率 28. 2 -52, 442, 521 丰田 ж \* H30 III-3 R01 III-3 R02 III-3 實 収 2 078 656 4四 R03 **III** — 3 R04 III - 3 26, 759, 832 千円 28, 140, 138 千円

● 当 該 団 体 値 新似団体内平均値 類似団体内の 最大値及び最小値

※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

- ※会和5年度中に市町村会供」た団体で、会併前の団体ごとの決策に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を管用していない団体については、グラフを表記しない。
- ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
- ※「人件書・物件書等の状況」の決管額は、人件書、物件書及び維持補格書の合針である。ただ」、人件書には重業書支弁人件書を含み、泥職会は含まない。
- ※人口については 冬調査対象年度の1月1日現在の住民基本会帳に登載されている人口に基づいている。
- ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※「定昌管理の状況」の「人口1,000人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスパイレス指数」については、各調査対象年度の 地方公務員給与事態調査に基づいている。

#### 財政力 財政力指数 [1.03] 1.29 1.20 1.03 1.00 0.75 0.79 0.79 0.77 0.60 0.47 H30 PO1 R02 DU3 R04

財政構造の弾力性

复似团体内置位 全国平均 神奈川県平均 5/62 0.49

3か年平均の財政力指数は、平成26年度以降構ばいで推移しており、会 和4年度は1.03と全国平均、県内平均、類団平均をいずれも上回っており、 **草い水準にある** 

令和3年度は6年ぶりに交付団体となったが、令和4年度は再び不交付 団体となった。

税源涵養施策の推進や徴収業務の強化など更なる歳入確保に努める必 要がある。

#### 類似团体内層位 全国平均 油容川厚平均 000 経常収支比率の分析圏 市税などの経常的な収入が微増した一方で、扶助費などの経常的な支 出が増加した。令和4年度は93.8%と県内平均を下回ったが、類団平均と 全国平均は上回っている。



経常収支比率 [93.8%]

財政の硬直化が進まないよう、今後も、社会経済情勢や少子高齢化の状 況を注視していく必要がある。





着似团体内層位 全国平均 神奈川県平均 160.081 155.03

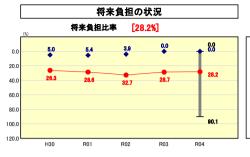
#### 人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

類団平均を上回っているものの、全国平均、県内平均を下回っているの は、人事院勧告に基づく給与構造改革、定員管理による職員数の適正化 などにより、人件費の抑制に努めていることや、窓口業務の民間委託、指 定管理者制度導入などにより、人件費の削減に努めてきたためである。今 和4年度に増額となっているのは、物価高騰の影響で指定管理料を増額し たことなどにより、物件費が増額となったためである。今後も職員の定員適 正化を図るとともに、行財政運営の効率化などを進め、経常経費の削減に 努めていく必要がある。

#### 令和4年度

#### 神奈川県海老名市

神妾川県平均



類似团体内膜位 全国平均 53/82

#### 解来會相比率の分析機

令和4年度は28.2%と全国平均、類団平均を上回っているものの、県内 平均を下回っている。

将来負担比率が減少した要因は、一部事務組合の地方債残高が減少し たことや基金残高が前年度と比較し増加したためである。

今後も市債を活用するにふさわしい事業を慎重に選択し、世代間負担の 公平に留意した市債活用を図っていく。

## 公債費負担の状況



着似团体内层位

全国平均

#### 実質公債費比率の分析欄

全国平均、県内平均を下回っており、類団平均と同値であるものの、低い 水準にある。

令和3年度に市場公募債の満期一括償還の完了年度を迎えており、令 和4年度以降の公債費の支出は抑制される見込みであったが、一部事務 組合の借入について据置期間が終了し、償還が始まったことなどから0.9ポ イントの増となった。実質公債費比率を良好な状態に維持するために、中 長期的な公債費の推計などにより、財政硬直化を招くことのないよう留意し た行財政運営を行っていく必要がある。

#### 定員管理の状況



類似団体内順位 全国平均 油容///厚平均

#### 人口1,000人当たり職員数の分析機

全国平均、県平均、類団平均いずれも下回っており、低い水準にある。 これは、「定員管理計画」に基づき、事務執行体制のスリム化や外部委託 の推進、広域行政の推進等を適正に行ってきたことによるものである。なお、 令和5年4月に策定した「えびなみらい定員管理計画」(令和5年度~令和 7年度)では、社会情勢の急激な変化、国の制度改正等による市民サービ スの向上、人口増加による業務量の増加等に対応するため、民間委託、指 定管理者制度を活用しつつ、人件費の抑制に努めながら、必要な限度にお いて職員の増加を図るものとしている。

## 給与水準 (国との比較)



着似团体内層位

#### ラスパイレス指数の分析機

令和元年度は各階層の下限年数の職員が増えたことにより、0.3ポイント の減となった。令和2年度は、高水準給料額の職員を採用したため0.1ポイ ントの増となった。令和3年度は職員構成の変動等により、各階層において 平均給料月額が増減し、結果的に0.2ポイントの増となった。令和4年度は、 低水準給料額の経験年数の少ない職員を多数採用したため0.2ポイントの 減となった。引き続き給与水準の適正化を図るとともに、自主的かつ主体 的な取組として、諸手当等の見直し検討を進めていく。

## (4)-1 市町村経常経費分析表(普诵会計決算)

#### 令和4年度

## 神奈川県海老名市

神奈川県平均

神奈川県平均

抽套川 厚平均

## 経常収支比率の分析



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

#### 人件費 15.0 20.0 25 ( 30.0 30.6 35.0 H30 R01 BU3 R04

#### 類似团体内順位 45/82

団平均を24ポイント上回っている。

人件費の比率は、26.3%と前年度比で0.2ポイント増加している。県 内平均を3.8ポイント下回っているものの、全国平均を0.4ポイント、類

神奈川県平均

30.1

151

全国平均

25.9

これまで人事院勧告に基づく給与構造改革や定員管理による職員 数の滴正化などに努めてきたが、人件費については引き続き、義務 的経費であることから、民間委託、指定管理者制度を活用しつつ、適 正な水準を保つ必要がある。

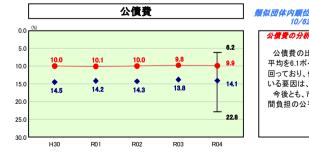


#### 扶助着の分析機

扶助費の比率は、14.2%と前年度比で0.8ポイント増加している。類 団平均とは同値、県内平均を2.9ポイント下回っているが、全国平均を 1.7ポイント上回っている。

これは、子育て支援施設型給付事業費、障がい者自立支援給付費 等事業費が増加したためである。

扶助費については、住民サービスの向上とともに財政の硬直化を 招くことから、市が単独で実施している事業については、慎重な対応 が必要である。



#### 公信誉の分析機

公債費の比率は、9.9%と前年度比で0.1ポイント増加している。全国 平均を6.1ポイント、県内平均を5.2ポイント、類団平均を4.2ポイント下 回っており、低い水準にある。他団体と比較して低い水準を維持して いる要因は、借入抑制を行ってきたことなどによるものである。

全国平均

今後とも、市債を活用するにふさわしい事業を慎重に選択し、世代 間負担の公平性に留意した市債活用を図っていく。



#### 類似団体内順位 R1/R2 物件費の分析機

物件費の比率は、23.7%と前年度比で1.9ポイント増加している。全 国平均を8.8ポイント、県内平均を8.7ポイント、類団平均を6.8ポイント 上回っており、高い水準にある。

全国平均

物件費の比率が高い要因は、窓口業務委託や指定管理者制度の 積極的な活用やふるさと納税関係経費が増加したことによるものであ

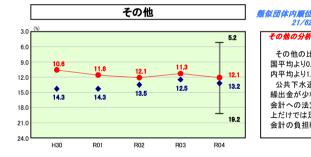
行政運営に係る物件費については、経営経費化しないよう。引き続 き、行財政改革の推進などにより縮減に努めていく必要がある。



## 15/82

補助費等の比率は、7.6%と前年度比で0.4ポイント増加してい る。全国平均を2.9ポイント、県内平均を1.5ポイント、類団平均を 2.8ポイント下回っており、低い水準にある。

補助費については、経常経費化しないよう、引き続き、補助金 の必要性、有効性、使途の適切さなどについて、検証、見直しを 行い、適正化を図っていく必要がある。



#### その他の分析欄

その他の比率は、12.1%と前年度比で0.8ポイント増加している。全 国平均より0.3ポイント、類団平均より1.1ポイント下回っているが、県 内平均より1.8ポイント上回っている。

公共下水道事業会計については、基準外繰出をしていないため、 繰出金が少ない状況である。しかしながら、国民健康保険事業特別 会計への法定外繰出しが依然として高額であり、国保税収納率の向 上だけでは足りないため、国保税の引上げを行った。引き続き、普通 会計の負担軽減に努めていく必要がある。



公債費以外の比率は、83.9%と前年度比で4.1ポイント増加し ている。全国平均を7.7ポイント、県内平均を2.3ポイント、類団平 均を5.3ポイント上回っており、高い水準にある。少子高齢化によ り、扶助費などの社会保障関連経費が増加したことが要因であ る。今後も社会保障関連経費は伸びていくことが見込まれるの で、物件費や補助費等などの消費的経費が経常経費化しない よう行政改革の推進などにより縮減に努めていく必要がある。

当該団体

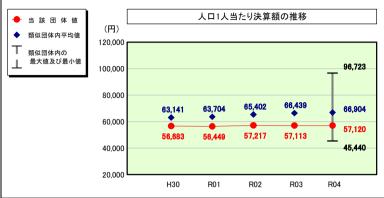
類似団体内平均値

類似団体内の

▲ 最大値及び最小値

# (4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

## 人件費及び人件費に準ずる費用の分析



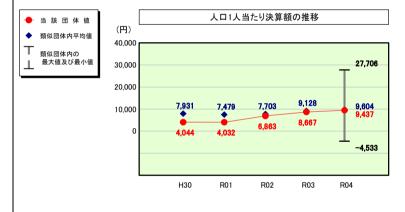
_人件費及び人件費に準ずる費用				
	当該団体決算額		人口1人当たり決算額	
	(千円)	当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	7, 907, 127	56, 898	62, 374	▲ 8.8
一部事務組合負担金(補助費等)	121, 470	874	4, 230	<b>▲</b> 79. 3
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	25, 524	184	601	<b>▲</b> 69. 4
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	1	13	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	275, 377	1, 982	2, 559	<b>▲</b> 22. 5
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	116, 102	835	1, 133	▲ 26.3
▲退職金	<b>▲</b> 507, 625	<b>▲</b> 3, 653	<b>▲</b> 4, 006	▲ 8.8
合計	7 937 975	57 120	66 904	<b>▲</b> 14 6

#### 参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	5. 82	6. 16	<b>▲</b> 0.34
ラスパイレス指数	101.5	98. 9	2. 6

(注)人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。

#### 公債費及び公債費に準ずる費用の分析

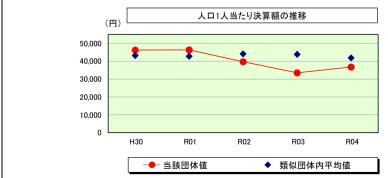


#### 公債費及び公債費に準ずる費用 (実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額	人口1人当たり決算額		
	(千円)	当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	2, 759, 137	19, 854	33, 699	<b>▲</b> 41. 1
積立不足額を考慮して算定した額	_	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	117, 262	844	23	3, 569. 6
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	153, 270	1, 103	5, 771	▲ 80.9
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	371, 180	2, 671	1, 158	130. 7
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	79, 995	576	631	▲ 8.7
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	0	-
▲特定財源の額	<b>▲</b> 451, 824	<b>▲</b> 3, 251	<b>▲</b> 6, 112	<b>▲</b> 46.8
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	<b>1</b> , 717, 564	<b>▲</b> 12, 359	<b>▲</b> 25, 565	▲ 51.7
合計	1, 311, 456	9, 437	9, 604	▲ 1.7

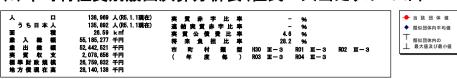
※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

## (参考) 普通建設事業費の分析



#### 普通建設事業費

		当該団体決算額	人口1人当たり決算額				
		(千円)	当該団体(円)	増減率(%)(A)	類似団体平均(円)	増減率(%)(B)	(A) – (B)
H30		6, 161, 796	46, 260	20. 3	43, 226	1. 3	19. 0
	うち単独分	2, 713, 801	20, 374	<b>▲</b> 10.9	22, 622	▲ 0.2	<b>▲</b> 10. 7
R01		6, 237, 091	46, 392	0. 3	42, 836	▲ 0.9	1. 2
	うち単独分	2, 729, 947	20, 306	▲ 0.3	22, 936	1. 4	<b>▲</b> 1.7
R02		5, 415, 948	39, 784	<b>▲</b> 14. 2	44, 161	3. 1	<b>▲</b> 17. 3
	うち単独分	2, 711, 301	19, 916	<b>▲</b> 1.9	23, 644	3. 1	<b>▲</b> 5.0
R03		4, 593, 454	33, 537	<b>▲</b> 15. 7	43, 955	<b>▲</b> 0.5	<b>▲</b> 15. 2
	うち単独分	2, 122, 002	15, 493	<b>▲</b> 22. 2	21, 318	▲ 9.8	<b>▲</b> 12.4
R04		5, 118, 612	36, 833	9.8	41, 921	<b>▲</b> 4.6	14. 4
	うち単独分	2, 581, 299	18, 575	19. 9	21, 655	1. 6	18. 3
過去5年間平均		5, 505, 380	40, 561	0. 1	43, 220	▲ 0.3	0. 4
	うち単独分	2, 571, 670	18, 933	▲ 3.1	22, 435	▲ 0.8	<b>▲</b> 2.3



- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、全和4年度決策の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

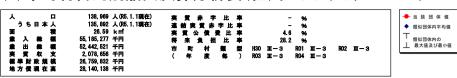


#### 性質別歳出の分析欄

・歳出決算総額は、住民一人当たり377,388円となっている。主な構成項目である人件費は、住民一人当たり56,898円となっており、全国平均、県内平均、類団平均と比較して低い水準にある。人事院勧告に基づく給与構造改革や定員管理による職員数の適正化などに努めてきたことや、窓口業務の委託や指定管理者制度の積極的な活用などにより低い水準を確保しているが、引き続き、行財政運営の効率化などにより、適正な水準を保つ必要がある。

・物件費は、住民一人当たり77.465円となっており、全国平均、県内平均、類団平均を上回っている。窓口サービスの向上を図るための業務委託や、指定管理者制度の積極的な導入によるものであるため、経常経費化してしまわないよう、引き続き、行財政改革の推進などにより縮減に努めていく必要がある。

・公債費は、住民一人当たり20202円で、全国平均、県内平均、類団平均と比較しても低い水準にある。他団体と比較して低い水準を維持している要因は、借入抑制を行ってきたことなどによるものである。今後とも、市債を活用するにふさわしい事業を慎重に選択し、世代間負担の公平性に留意した市債活用を図っていく必要がある。



- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、全和4年度決策の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



#### 目的別歳出の分析欄

・民生費は、住民一人当たり147.698円で全国平均、県内平均、類団平均と比較して低い水準にある。今後も障がい者支援や子育て支援などへの需要が見込まれているため、扶助費をはじめとする民生費の増加が避けがたい状況にあり、注視が必要である。民生費は、住民サービスの向上とともに財政の硬直化を招くことから、特に市が単独で実施している事業については、慎重な対応が必要である。

・消防費は、住民一人当たり15.672円で、全国平均、県内平均、類団平均と比較して高い水準にある。消防車両の整備などによるものであるが、さらに分署の整備や指令システム改修などがあるため、今後とも必要な財政負担を行っていく。

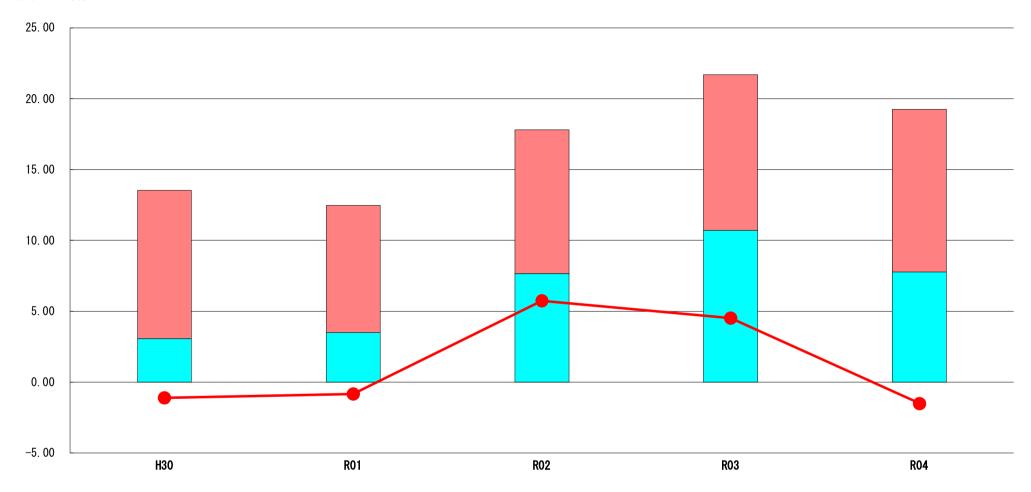
・公債費は住民一人当たり20202円で全国平均、県内平均、類団平均と比較して低い水準にある。これは借入抑制を行ってきたことなどによる。今後とも市債を活用するにふさわしい事業を慎重に選択し、世代間負担の公平性に留意した市債活用を図っていく。

## (7) 実質収支比率等に係る経年分析(市町村)

令和4年度

神奈川県海老名市

## 標準財政規模比(%)



## 標準財政規模比(%)

区分 年度	H30	R01	R02	R03	R04
財政調整基金残高	10. 46	8. 98	10. 15	10. 98	11. 48
実質収支額	3. 07	3. 50	7. 67	10. 71	7. 77
<b>上</b> 実質単年度収支	▲ 1.10	▲ 0.83	5. 74	4. 52	▲ 1.50

## 分析欄

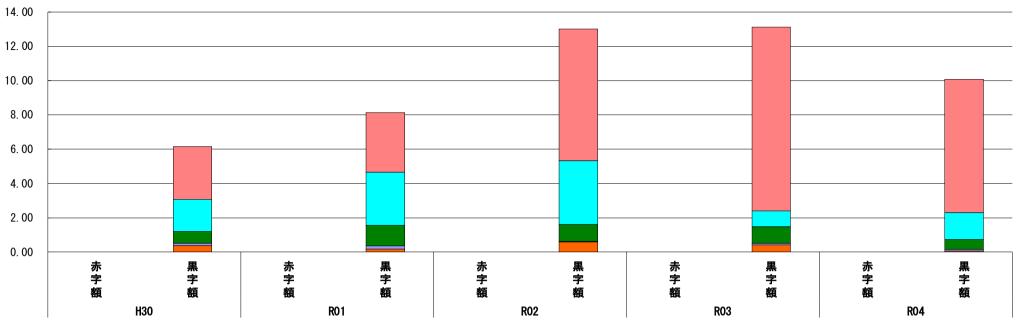
- ・財政調整基金については、令和4年度において、決算に伴う純繰越や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金などの補正予算における財源超過分を積み立てたことにより、令和3年度に引き続き適正な基準と言われている標準財政規模の10%程度を維持している。
- ・実質単年度収支については、翌年度繰越財源が多かった年に赤字となっている場合があるが、実質収支については、行財政改革を着実に進めていることから継続的に黒字を維持している。

# (8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析(市町村)

標準財政規模比(%)

令和4年度

神奈川県海老名市



標準財政規模比(%)

年度 会計	H30	R01	R02	R03	R04
一般会計	3. 07	3. 49	7. 67	10. 70	7. 76
介護保険事業特別会計	1. 87	3. 08	3. 73	0. 92	1. 57
公共下水道事業会計	0. 71	1. 21	0. 99	0. 98	0. 58
後期高齢者医療事業特別会計	0. 12	0. 17	0. 02	0. 10	0. 09
国民健康保険事業特別会計	0. 38	0. 19	0. 60	0. 41	0. 07
公共用地取得事業特別会計	-	-	-	-	0. 00
その他会計(赤字)	-	-	_	-	-
その他会計 (黒字)	-	-	-	-	-

## 分析欄

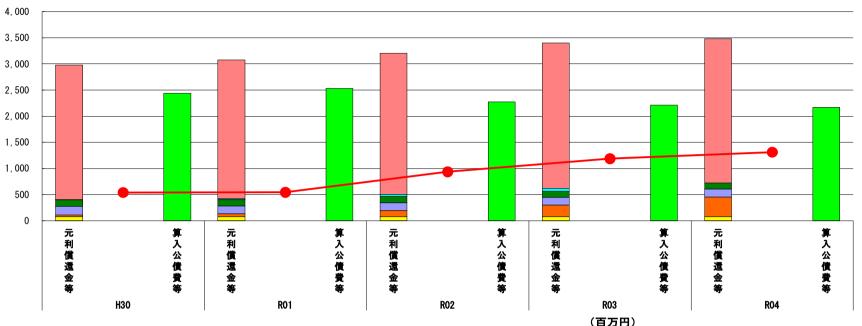
- ・各会計の平成30年度から令和4年度までの間において、適正な予 算執行により実質赤字額が算定されていない。
- ・一般会計は、前年度に比べ歳入歳出決算額が減額し、実質収支額も減額となった。
- ・国民健康保険事業特別会計は、平成30年度の国民健康保険制度改革によって、都道府県が財政運営の主体となり、安定的な国民健康保険制度の運営に中心的な役割を担うようになった。県が保険給付に必要な費用の全額を保険給付費等交付金として市町村に支払い、運営費用として市町村は、国民健康保険事業費納付金を県に収めることにより、市町村の国民健康保険財政の安定化が図られるようになった。

## (9) 実質公債費比率 (分子) の構造 (市町村)

令和4年度

神奈川県海老名市

#### (百万円)



							(H)311/
分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
		元利償還金	2, 575	2, 650	2, 703	2, 784	2, 759
		減債基金積立不足算定額※2	6	23	38	52	ı
		満期一括償還地方債に係る年度割相当額	123	121	120	119	117
元利償還金等(A)		公営企業債の元利償還金に対する繰入金	167	151	150	151	153
		組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	30	52	117	216	371
		債務負担行為に基づく支出額	78	79	79	80	80
		一時借入金の利子	-	-	-	-	ı
算入公債費等(B)		算入公債費等	2, 440	2, 533	2, 271	2, 214	2, 170
(A) - (B)	-	実質公債費比率の分子	539	543	936	1, 188	1, 310

#### 分析欄

元利償還金は、他団体と比較して低い水準 を維持している。

今後とも、実質公債費比率を良好な状態に 維持するために、中長期的な公債費の推計な どにより、財政硬直化を招くことのないよう 留意した行財政運営を行っていく必要がある。

- ※1 令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
- ※2 減債基金積立不足算定額=(C) × (1-(D)/(E))

_(参考)						(百万円)
	年度	H30	R01	R02	R03	R04
	満期一括償還地方債に係る実質償還額又は理論償還額のいずれか少ない額(C)	67	67	67	67	0
減債基金 積立状況等(注)	前年度末減債基金残高(D)	283	243	183	103	0
	前年度末減債基金積立相当額(E)	311	367	422	475	527

#### 分析欄

住民参加型市場公募債である「海老名みのり債」の償還の財源 としている。「海老名みのり債」の発行は休止しており、再開予 定がないことから、令和4年3月31日付けで減債基金を廃止した。

減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

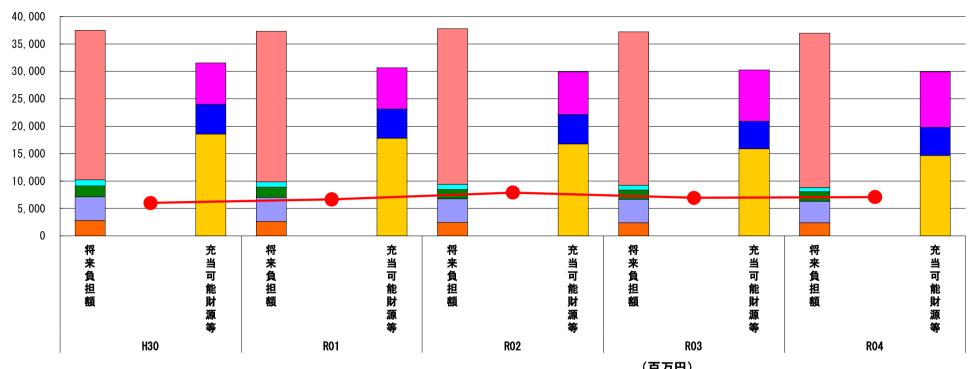
<sup>(</sup>注)減債基金のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源に係るもののみを記入。

## (10) 将来負担比率 (分子) の構造 (市町村)

令和4年度

神奈川県海老名市

(百万円)



							(日万円)
分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
		一般会計等に係る地方債の現在高	27, 325	27, 492	28, 376	28, 000	28, 140
		債務負担行為に基づく支出予定額	1, 101	1, 023	944	864	784
		公営企業債等繰入見込額	1, 967	1, 864	1, 713	1, 715	1, 746
		組合等負担等見込額	4, 350	4, 350	4, 313	4, 224	3, 939
将来負担額(A)		退職手当負担見込額	2, 783	2, 627	2, 452	2, 408	2, 356
		設立法人等の負債額等負担見込額	-	1	-	-	-
		うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額	-	1	-	-	-
		連結実質赤字額	-	1	-	-	-
		組合等連結実質赤字額負担見込額	-	1	-	-	-
		充当可能基金	7, 505	7, 550	7, 769	9, 368	10, 102
充当可能財源等(B)		充当可能特定歳入	5, 444	5, 331	5, 343	5, 008	5, 146
		基準財政需要額算入見込額	18, 584	17, 807	16, 779	15, 900	14, 643
(A) - (B)	-	将来負担比率の分子	5, 991	6, 668	7, 906	6, 936	7, 074

## 分析欄

近年、市債及び基金を積極的に活用してまちづくりを進めてきたことから、市債残高が増加し、基金残高が減少してきた。

そのため、平成19年度に算定を開始して以来、初めて平成27年度に将来負担比率が算定されたが、令和4年度では28.2%と他団体と比較しても低い水準を維持している。

今後も将来負担比率が上昇していくことが見込まれるため、地方債残高が増額しすぎないように、市債を活用するにふさわしい事業を慎重に選択し世代間負担の公平性に留意した市債活用を図っていく必要がある。

<sup>※</sup>令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

## (11) 基金残高(東日本大震災分を含む)に係る経年分析(市町村)

(百万円)

# 10, 000 9, 000 8, 000 7, 000 6, 000 4, 000 2, 000

				(百万円)
区分	年度	R02	R03	R04
	財政調整基金	2, 631	2, 836	3, 073
	減債基金	-	-	-
	その他特定目的基金	3, 985	4, 910	5, 520
	公共施設等あんしん基金	1, 927	2, 435	2, 557
	新まちづくり基金	1, 175	1, 194	1, 357
	応援まごころ基金	883	970	992
	情報システム基金	-	300	594
	森林環境讓与税基金	-	11	20
	基金残高合計	6, 615	7, 746	8, 592

R03

R02

令和4年度

神奈川県海老名市

#### 基金全体

#### (増減理由)

財政調整基金については、補正予算における財源不足分を繰り入れるため取崩しを行ったが、決算に伴う純繰越や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金などの補正予算における財源超過分の積み立てがあり、2億3千7百万円の増となった。そのほか、情報システム基金、森林環境譲与税基金などに積み立てしたため、基金全体で8億4千6百万円の増となった。

#### (今後の方針)

人口増に伴い税収増が予想されるが、情報システム関連の財政負担など様々な需要が見込まれるため、今後とも適切な基金の活用をしてい

#### 財政調整基金

#### (増減理由

補正予算における財源不足分を繰り入れるため取崩しを行ったものの、決算に伴う純繰越や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金などの補正予算における財源超過分を積み立てたことにより、増額となった。

#### (合後の方針

積立金の増により残高は標準財政規模の10%以上を確保している。今後も安易に取り崩すことのないよう、一定の残高確保に引き続き努める。

#### 滅債基金

(増減理由)

(今後の方針)

#### その他特定目的基金

#### ((基金の使途

公共施設等あんしん基金:将来の公共施設老朽化対策のため

新まちづくり基金:まちづくりの重点投資期間での活用

応援まごころ基金:寄附金を各政策の財源とするため

情報システム基金:情報システムの導入及び更新に要する費用に対する財政負担の平準化のため

森林環境譲与税基金:森林環境譲与税充当対象事業への活用のため

#### (増減理由)

公共施設等あんしん基金:補正予算における財源超過分の積み立てにより増加

新まちづくり基金:補正予算における財源超過分の積み立てにより増加

応援まごころ基金: ふるさと納税の寄附額増額に伴い増加

情報システム基金:補正予算における財源超過分の積み立てにより増加

森林環境譲与税基金:森林環境譲与税譲与金の交付に伴い増加

#### (今後の方針)

公共施設等あんしん基金:今後も財政需要が見込まれるため、計画的に積み立てを行う。

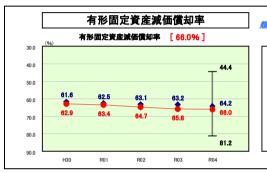
新まちづくり基金:計画的に積み立てを行っているが、中新田丸田地区土地区画整理事業等に活用するため、減少傾向が予想される。

R04



● 当該団体値 ◆ 類似団体内平均値 T 類似団体内の ▲ 最大値及び最小値

- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※ 令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還比率、実質公債費比率、将来負担比率のグラフを表記しない。
- ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



類似团体内層位

#### 有形固定資産遺価償却塞の分析欄

有形固定資産減価償却率は、類似団体より高い水準であるが、 平成29年3月に策定した海老名市公共施設再編(適正化)計画 に基づき施設の維持管理を適切に進めている。令和4年度中に 全施設の個別施設計画の策定が終了したため、個別施設計画に 基づき施設の統廃合を含めた施設管理の検討を進めている。

神奈川県平均

62 1



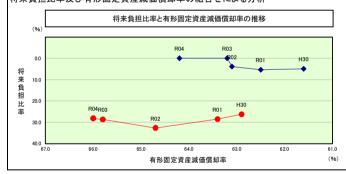
類似团体内順位 全国平均 27/82 514.4

神奈川県平均 873.1

信務僧還比率の分析網

債務償還比率は、類似団体平均を下回っており、主な要因は、 借入れを抑制してきたことによるものと考えられる。

#### 将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析

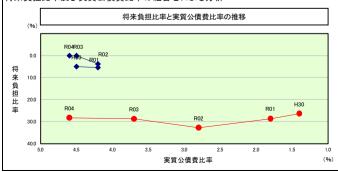


2.7.16年 ・将来負担比率は、前年度より減少したものの、今後、市債の積極的な活用が見込まれることから一時的に増加するものと見込まれる。また、有形固定資産減価償却率は、依然、増加傾向にある。 | 市債活用にふさわしい事業を慎重に選択するとともに、海老名市公共施設事編(適正化)計画に基づき、施設の老朽化対策に取り組む必要がある。

参考 )

		H30	R01	R02	R03	R04
当該団体値	将来負担比率	26.3	28.6	32.7	28.7	28.2
1	有形固定資産減価償却率	62.9	63.4	64.7	65.8	66.0
類似団体内平均値	将来負担比率	5.0	5.4	3.9	0.0	0.0
類似凹体內干均值	有形固定資産減価償却率	61.6	62.5	63.1	63.2	64.2

#### 将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



事質公債費比率は、類似団体平均と同水準にあるが、将来負担比率は、前年度より減少したものの、高い水準になっている状況が続いている。

財源の確保対策として市債の積極的な活用が見込まれることから、各比率が一時的には増加するものと見込まれる。市債活用にふさわしい事業を慎重に選択し、世代間負担の公平性に留意した市債活 用を図るとともに、中長期的な公債費の推計などにより、財政硬直化を招くことのないように留意した財政運営を行っていく必要がある。

(	参考	)

		H30	R01	R02	R03	R04
当該団体値	将来負担比率	26.3	28.6	32.7	28.7	28.2
	実質公債費比率	1.4	1.8	2.8	3.7	4.6
類似団体内平均値	将来負担比率	5.0	5.4	3.9	0.0	0.0
	実質公債費比率	4.5	4.2	4.2	4.5	4.6

## (13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

令和4年度

神奈川県海老名市

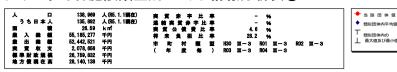


- ※ 市町村籍型とは、人口および斉集構造等により全国の市町村を35のグループに分額したものである。当該団体と同じグループに属する団体を額似団体と言う。
- ※ 人口については、各間査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

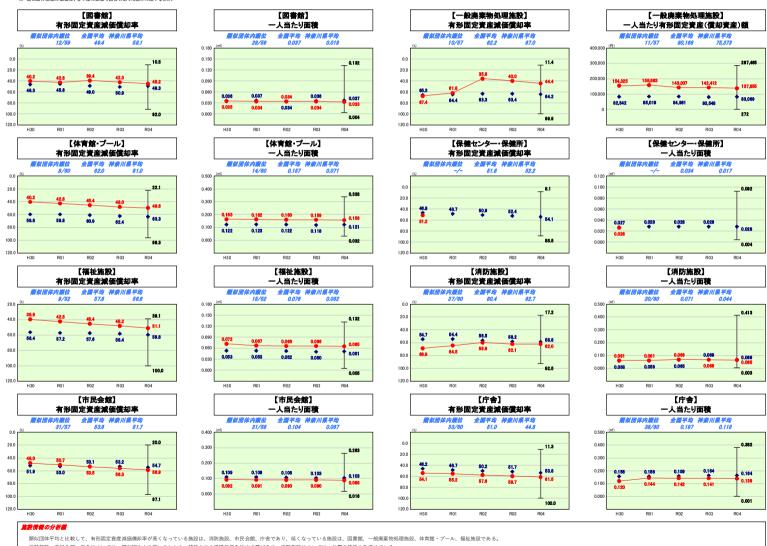


#### 施設情報の分析機

類似団体平均と比較して有形固定貴産減価償却率が高くなっている施設は、道路、学校施設であり、低くなっている施設は掲りょう・トンネル、認定こども関・効権圏・保育所、公営住宅である。 学校施設については、有形固定貴産減価償却率が749%となっているが、個別計画に基づき大規模改修を行うなど、老朽化対策を行っていく予定である。 公営住宅については、平成26年度末に一部公営住宅を廃止し、新たに公営住宅を建設したこと、保育所については、老朽化対策も合め、平成30年に策定した公立保育圏のあり方に基づき、廃止及び民営化したことから類似団体と比べて低くなっている。



- ※ 市町村籍型とは、人口および斉集構造等により全国の市町村を35のグループに分額したものである。当該団体と同じグループに属する団体を額似団体と言う。
- ※ 人口については、各間査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



類似団体平均と比較して、有形図定資産試価値卸率が高くなっている施設は、消防施改、市長会館、庁舎であり、低くなっている施設は、図書館、一般廃棄物処理施設、体育館・ブール、福祉施設である。 消防施設、市民会館、庁舎については、類似団体より高いことから、建替えや大規模改修を行う必要があり、消防施設については、分署の建替えを進めている。 海老名市公共施設再編(第正化)計画に基づき施設の維持管理を適宜に進める。